

## 審議結果

審議会等名称：総合計画審議会 計画推進評価部会 グループ会議（グループC）

開催日時：令和7年4月25日（金）18:00～20:00

開催場所：神奈川県庁新庁舎 8階 議会第一会議室

出席者：小野島真、山岸絵美理、国崎信江、中西正彦、原嶋洋平、中田直樹

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画G 陶山

電話番号045-210-1111（内線3064） ファックス番号045-210-8819

---

### 審議経過（議事要旨）

- ◎ 事務局より、資料「新かながわランドデザイン評価報告書2024」（案）に基づき、プロジェクトごとに、数値目標の達成状況、事業の取組状況、社会環境の変化を表す指標などを踏まえた総合分析や今後の課題と対応方向について説明を行い、「最終評価（総合計画審議会による二次評価）」欄に記載する事項等について、委員による議論を行った。

## プロジェクト8 脱炭素・環境

### 【主な発言】

- 原嶋委員：温室効果ガス排出量が減少傾向にあることや、電気自動車も増加していることから、県の一次評価は概ね妥当と考えているが、4点指摘する。

1点目は、県の地球温暖化対策計画の排出量削減目標は昨年改定されたばかりであるが、既に達成が困難との話があった。PDCAサイクルを回して目標の見直しを行わないと、残り1年で30%程度を削減することは現実的には難しく、絵に描いた餅になってしまう。

2点目は、温室効果ガスの排出量は削減傾向にあるとのことだが、これはコロナ禍の数字である。現在、コロナは収束し、インバウンドも含めて経済活動が活発になっているのでリバウンドに注意する必要がある。

3点目は、今回の比較では脱炭素に注目しているが、神奈川では、森林面積が減少している。世界的には「30by30」として、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全していく動きがある中、森林や生物多様性の保全・保護という視点から、地球温暖化対策・脱炭素の取組を推進していく必要があるのではないか。

最後に、知事が先頭に立ってペロブスカイト太陽電池を推進しているので、積極的に取り組んでいただきたい。具体的な施策がなかなか見えてこないが、神奈川発を強く発信し、中身の

ある導入推進策を検討いただきたい。

- 中西委員：50%削減、70%削減という目標は、理念優先の高い目標である。目標の達成が見込めない中、評価については、「概ね順調に進んでいる」ではなく、「遅れている」とすべき。厳しいことも含めて、進捗を評価することで、高い目標を見直すことにつながる。K P I の平均達成率は高いが、総合評価として最も評価しなければいけないことは、プロジェクトのねらいを達成できているかという点である。そのため、指標を見なければならず、K P I のみで「順調に進んでいる」とすることは、本末転倒ではないか。

プロジェクトのねらいを達成できるのかという観点で、取組内容を継続していくことが、P D C A サイクルを回すことにもつながる。P D C A サイクルにつなげる必要性を出すという意味でも、厳しく評価することが、結果としては良くなる。

- 山岸委員：K P I に「脱炭素を意識した取組を行っている人の割合」がある。この「人」は「人間」意味していると思うが、多様な主体という意味では、県内にある様々な企業などの取組も必要になるので、県内の企業など、「人」以外の主体にもアプローチしていく視点があってもよい。
- 小野島座長：主な事業の取組状況が記載されているが、個人の意識に働きかけるようなものが掲載されていない。何か記載すべき。
- 中田委員：指標「県内の温室効果ガス排出量の削減割合」について、2030年度の目標値の50%削減と2022年度の実績である19.9%の間に大きな乖離があるがこのまま何年か経過観察しても目標値との乖離がある場合はどうするのか。場合によっては、目標値を下げるつもりがあるのか。また、目標値を50%に設定したポイントや背景を知りたい。そこまで理解しないと正確な二次評価はできない。
- 中田委員：「今後の課題」「今後の方向性」に、「オールジャパンでのさらなる取組の加速化が必要」とある。趣旨は理解できるが、県として、オールジャパンにどのように具体的に訴えていくのか。広報だけではオールジャパンにはならない。県として東京都や他県に対してどのように働きかけていくのが重要なことになるのではないか。
- 国崎委員：目標の達成が厳しいのであれば、目標値を下げることは理解できる。一方で、こういう取組をすれば目標を達成できる、という計画にすべきであり、目標値を簡単に下げることは、計画の信頼性を失うのではないか。ただ、計画初年度の評価であることから、この目標を達成するためにどのように取り組んでいくべきか、前向きな意識も必要。
- 中西委員：評価は厳しくすることに意味がある。県の総合分析で、K P I は順調に進んでい

るが、指標が進んでないので一段階下げたという記述に違和感がある。順序が逆ではないか。

つまり、指標の動向からは、プロジェクト全体の進捗は遅れていると考えられるが、K P Iの達成状況を踏まえ、県の取組の評価としては、一段階上げて「概ね順調」とする、という記載が本来は望ましい。そういったことを記載した上で、評価を調整するというのであれば致し方ない。対応の方向性としては、指標を達成できるように、個別の取組をしっかりと見直していくことが大前提である。

○ 国崎委員：第三者が見たときに違和感がある。県による一次評価は「概ね順調に進んでいる」だが、「こういう理由で、こういう評価に至った」と誰に対しても同じように説明できなければならない。指標を見ると、誰もが目標50%を達成できるのか、どう見ても遅れているのではないかと思うので、対外的にどのように説明するのか気になる。

○ 小野島座長：最終評価欄の二次評価については我々が責任を持たなければならない。評価のポイントについては、K P Iの平均達成率は抜きにし、50%削減を目指す中、削減の方向には向いているが、目標には達していないことを記載すべき。

「遅れている」ことに間違いはないので、いつの段階で改善して、「概ね順調に進んでいる」にするのがポイント。初年度の評価ということもあり、今後の経過を見極めた上で、どこかのタイミングで「遅れている」という評価に下げることが適切ではないか。

○ 原嶋委員：今後についての考え方もしっかり記載する前提で「概ね順調」とすればよい。コロナが収束して、今後、2023年度や2024年度の数字が出てくる。ここで進捗が悪ければ、「遅れている」と判断せざるを得ない。

○ 小野島座長：今回の会議で出た意見を評価のポイントや、今後の課題と対応の方向性に反映することを前提とした上で、県の一次評価の原案に同意するという結論とする。なお、このプロジェクトについては、原案の記載を早めに調整した上で、委員に1度見ていただくこととする。

#### 【まとめ】

○ 総合計画審議会の二次評価は、県の一次評価同様、「概ね順調に進んでいます」とする。

ただし、評価のポイント、今後の課題と対応の方向性の原案について、委員確認の上、計画推進評価部会で審議する。

## プロジェクト11 暮らしの安心

### 【主な発言】

- 中西委員：「『犯罪や交通事故がなく安全で安心してらせること』に関する満足度」が、既に目標を達成している。標値の設定が難しいが、30%や32%という目標値にどれくらいの意味があるのか問われているのではないかと。どこかで目標値の見直しが必要になるのではないかと。

「自主防犯活動団体の登録数」の達成率が低いことについては、コミュニティ活動が衰退し、自治会などが解散するといった状況から自ずと見えてくる。県は頑張っているが、社会状況的にあがえない。そういったことを踏まえると、県評価は妥当だと思うが、コミュニティの課題について今後どう取り組むかが重要。
- 山岸委員：昨今の状況をみると、犯罪者を生まないという視点も大事なのではないかと。「犯罪などの起きにくい地域社会づくり」において、K P Iの達成状況の中に、学校からの依頼による講習会が減少している点については課題として言及した方がよい。

自主防犯活動や消費生活などは、県民の生活に関わることなので、県内の市町村との協力体制をより進めていくといった視点も踏まえていただきたい。
- 原嶋委員：事件が起きることを抑止するためには、コミュニティ社会のあり方が重要。高齢者が被害者になる事件が多いが、例えば、高齢者が自動車の運転により、加害者になることもあり得るので、どのように防いでいくのかという視点を検討していただきたい。
- 国崎委員：犯罪の有り様は社会状況によって大きく変わるので、犯罪は評価が難しい。例えば、交通安全といっても、道路交通法改正により、電動キックボードで歩道を走れるようになったため、歩行者との接触事故等が発生している。また、最近では、サイバー犯罪や特殊詐欺など、多様な犯罪も出てきている。そうした中、細かな分析をしていかないと、適切なアプローチができない。例えば、交通事故の死者数は、高齢者、子どもどちらが多いのか。講習においても、誰に対してどのような講習をしたら効果が出るのかということも含めて考えるべき。

2024年の実績が出ているが、今後、2025年、2026年、2027年と実績が出てきた時に、どのような点を見て評価するのか難しくなると感じた。
- 中田委員：今後の課題について、「安全で安心な消費生活を送れること」の目標が3割というのは、要するに10人のうち3人しか満足していないので、もう少し掘り下げて記載すべき。
- 中西委員：総合的な評価で概ね順調とすることに大きな異存はない。例えば、「消費生活の安心」のK P Iについては既に達成しているので、高い目標への見直しを行い、各事業を進めるといったことも必要なのではないかと。
- 小野島座長：既にK P Iの達成率が100%を超えているものもあるが、最終的には満足度を見るしかない。県の施策が効果的なのかという判断は難しいが、「概ね順調に進んでいる」でま

とめていくこととしたい。今後の課題については、犯罪の予防、コミュニティのあり方や社会環境の変化等に対応するという点について、もう少し細かい形で記載することとしたい。

- 国崎委員：先ほど、安易に目標を変えるべきではないという話をしたが、命に直結する犯罪の話ということもあり、目標を見直すことが重要である。例えば、出前講座の回数を多くすれば、安全・安心な生活になるのかということ、決してそうではない。この講座を受けた参加者について、半年後や1年後に自身の行動や感覚が、安心につながったかどうかを踏まえた上で評価することが必要。くらしの安全では、例えば、住居侵入に対しての項目がほとんどない。住居侵入に対して不安を感じる高齢者もいるので、不安に対する取組内容の記載を盛り込むことができれば、そういったことを踏まえた評価であると県民に認識してもらえるのではないかと。

#### 【まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は、県の一次評価同様、「概ね順調に進んでいます」とする。

## プロジェクト12 危機管理

### 【主な発言】

- 小野島座長：指標でいえば病床数以外の2つは数値としては落ちているので、これをもって「順調」と評価して本当によいのか。さらに、「遊水地や流路のボトルネック等の整備箇所数」は、目標が1又は2となっている。つまりは、一つ計画を立てて、その一つの計画が実行されたというだけの話だろうと思う。これを果たして本当にKPIにしているのかと思う。
- 中西委員：整備箇所数などは、県の方で実施可能な箇所数を積算し、費用と時間がかかるので、何年かに一つ、二つ実施できればということで立てた目標であると推察する。そうしたことから、達成率が100%になるのは当たり前で、それ以外の数字が大きい目標をしっかりと達成できているか、というように評価する側もKPIについて重みづけをする必要があると思う。そういう意味では、土砂災害は、最近災害の激甚化や気候変動で増えているので、「土砂災害防止施設の整備箇所数」の目標が23から54とかなり多く実施しなければいけないが、目標に届いてないというのは、もう少し頑張るべきであると思う。

平均的に見て「順調」と評価するのは、指標上はいいのではないかとと思う。指標の感想を述べると、「大地震などの災害がおきても3日間はくらすように、防災の準備が出来ている」人の割合や「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」に関する満足度が下がったというのは、あちらこちらで大きい災害のトラブルが起きると、危機感を煽られて、実際の

環境が変わってないのに準備の度合いや満足度が下がるということもあるかと思う。そのような事情を踏まえながら実質的に人々の準備が整うよう適切な事業を丁寧に行うということが重要であると思う。

評価は評価として、特に人に働きかけるようなものや、県としてハード整備でできることはしっかりやったうえで、県民の防災意識向上に向けた働きかけなど、県としてできることは必要に応じてしっかり取り組んでいただきたい。

- 中田委員：企業でも職員の自己評価は高め、上司の評価は厳しめになる傾向がある。二次評価でどう掘り下げるかということが大切。そうでなければ、我々二次評価者がここにいる価値がないと考える。

いざ、地震などの災害が発生したときに、住民が頼りにせざるを得ないのは、県ではなくて市町村であると思う。よって、市町村と県の連携についての評価というか、県が市町村に対してどういう働きかけを行ったかというのを、今後分析に付け加えていったほうがよいと思う。

今回の報告では、市町村との連携に関して読み取ることが全くできなかった。

正直、一県民として3年前と現在で、危機管理がだいぶ良くなっているかということ、全くそんなことはなく、変わってない。やはり県として、市町村にどのように働きかけるか、そこがこれから必要であると思う。あくまで、今後の課題と方向性というところにポイントを絞って言うと、そういうところをぜひ考えていただきたい。

- 山岸委員：プロジェクト11やプロジェクト12は、住民の命や生活に関わる、いわば最も行政らしい施策というか、力を入れなければいけない部分でもあることを踏まえると、やはり市町村との連携について、今後の方向性として記載した方がいいのではないかと。

具体的な提案として、座長が先ほど話されたように数値がおおよそ下がっているということなので、今回評価として「順調」とするのはいいが、「今後の課題」と「今後の方向性」において、下がっている評価についての分析を必ず行うというような文言を入れていただきたい。

- 国崎委員：もともとこの「危機管理」すなわち防災・自然災害に対しての評価に関しては、評価項目をどうするのかについて審議の中でも述べたが、「ビッグレスキュー」への参加人数、「かながわけんみん防災カード」の配布枚数や、「かながわ消防フェア」の実施回数など、こういったことで果たして県民の防災意識の向上をどのように測れるのか。そういった意味では評価は難しいということであったが、正直私が恐れていた結果が出ているように思う。例えば、「ビッグレスキュー・かながわ消防などの訓練参加人数」は、目標よりも実績の方が多くなっている。また、「かながわ版ディザスターシティを使用した訓練への消防団員及び自主防災組

織の延べ参加人数」も大きく増えている。

しかし、その結果、参加したところで防災の準備というアクションには全く繋がっていないというふうにも見て取れる。おそらくこれからも、ビッグレスキューの参加人数の目標は、消防関係の方や自主防災組織の方を動員すれば達成するであろう。ただ、防災の意識に関する数値が果たして上がっていくのかというところについては、取組自体をしっかりと考えていかないと、どんどん数字が乖離していき、今回は仮に「順調に進んでいます」という評価をしたところで、果たしてこの評価を続けていくことができるのだろうか、我々は一体何を見て評価をしたらいののだろうか悩むのではないかと思った。「構成施策」として「災害対応力の強化」というところがあり、その下の「取組内容」に、「「自助」「共助」の取組の促進」がある。この「自助」に対してはどの取組が該当するのかが、見えてこないで、「今後の課題」「今後の方向性」の箇所に、「自助の促進」や「災害救助対応力の強化」に対応する取組について記載していただき、この「取組内容」の部分をしっかり踏まえた体制を構築していただきたいと思う。

- 小野島座長：一次評価としては、「順調に進んでいる」という最上位の評価という形になるが、県としては、整備計画等を含めやるべきことはやっているが、ではその効果はどうかと問われると評価しづらい。実際に、満足度という面で見ても、大きな向上というのは、実際のところまだ見られていないというところ、それをどう判断するかということになるかと思う。まずもって、このまま最上位、順調であると言い切ってしまうてよいかという点について、意見をいただきたいと思うがいかがか。
- 中田委員：結局、一次評価がKPIに基づくものなので、まずKPIで見れば順調に進んでいるということだが、二次評価では、KPI以外の要素も入れて厳しく見ていかなければいけないと思う。
- 中西委員：難しいところであるが、いくつかの切り口があって、行政が行政としてできることは一生懸命されていると思う。ただ、先ほどから指摘があるように、それが個人のレベルに届くというところについては、やはりまだ工夫がいるということだと思うので、それを二次評価に記載していただくべきだと思う。本来、それができなければ、「順調」という評価にするのはためらいがある。個人的には、「滞っている」とは言わないまでも、「やや順調」なのではと思う。最終的には全体の議論に任せるが、少なくとも、個人のレベルに届かせる努力をきちんと行う必要があるという指摘はしたいと思う。
- 小野島座長：県としてやるべきことや、やろうとしていたことは順調に進んでいるというの

はその通りだと思うので、目標に対して順調に進んでいるという形で二次評価でも結論づけたいと思う。しかし、議論の中で出た、実際にその効果はどうかというようなところについては、やはりしっかりと指摘せざるを得ないと思うので、そこを「評価のポイント」という形で次年度以降に引き継いでいきたい。

そして今後の対応という面では、市町村との連携といった話があった。また、レスキューへの参加や、カードの配布といった取組の効果分析もきちんとすべきだということも対応策として記載する形で結論づけたい。

#### 【まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は、県の一次評価同様、「順調に進んでいます」とする。

### プロジェクト13 都市基盤

#### 【主な発言】

- 中西委員：現況値は概ね改善傾向であり、県の一次評価は妥当ではないか。
- 中西委員：「自動車専用道路などの供用箇所数」の目標値の1に対して、実績値が0となっていることで平均達成率が大きく影響を受けるなどの不自然さがある。
- 中西委員：ロジックモデルや他のプロジェクトでもそうだが、星印がついていてKPIの設定がある箇所は評価の対象になるが、ソフト施策は、KPIがないので評価が難しい。本来は、ソフト施策も定性的な形でよいので、評価報告していただき、それを踏まえて最終評価をするべきだと思う。
- 中西委員：強靱化に関するところについては指標もたくさんあり、実際に県も出来ることを書いているので頑張ってくださいということに尽きる。一方で質的なところについて、魅力あるところについては、なかなかそれが見えない。公園も利用者数だけでなく、本当に楽しんでいるのかといった話やインクルーシブ公園を参加型で活用して、みんなが本当に魅力的に思っているといった点まで踏み込まないと魅力溢れるということが難しい。

また、取組を着実に進めていただきたいということ、その成果が見えるような工夫、質的効果を考えることは入れていただきたい。このような事業は、昨今の建設費の高騰なども含めて遅れ気味であるのは察しているが、その状況を踏まえつつも、しっかり進めていただきたい。

- 中田委員：県による一次評価について疑問がある。理由は、KPIで評価を行うのはよいが、例えば自動車専用道路を作らなかったから0というのは理解できるが、1件の目標値に対して実績値が0件で達成率を0%のままにしておくのでは説明責任を果たせない。0か100しかなく、

その合計を項目数で割ってK P Iを出せば済むという話ではない。広義の意味での評価項目を増やしてK P Iの数値に実質的な意味を持たせる必要があると思う。

指標の動向「「自動車でスムーズに移動できること」に関する満足度」も目標20%では低い。この目標値では、県民に自動車のスムーズな移動を諦めてくれ、と言っているようなものである。県民のニーズをもっと捉えて具体的に対策を練っていく必要がある。

○ 国崎委員：「1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅におけるホームドアの設置駅数」が28ヶ所ということだが、母数がないと果たして妥当な数なのかかわからない。母数を意識して今後資料づくりをしていただきたい。

○ 国崎委員：インクルーシブな遊具を導入した県立都市公園数の目標が1か所だが、県内に1か所でいいわけがない。1か所設置して目標を達成しても、100%で良かったとは思えない。

県内47公園で、インクルーシブな遊具を必要とする公園が県内に27公園あるとして、優先順位等の基準は何かあるか。年に1か所、2か所といった時の優先順位である。27公園にいずれはできるかもしれないが、年に1か所、2か所というペースでは、その間に大人になってしまう子どももいる。この質問の意図というのは、今後の課題と対応の方向性と評価のポイントに関わってくると思う。何をもちいて目標達成とみなすのかという点において、目標値の立て方について問題があるので見直していかなければいけない。

○ 山岸委員：一次評価における今後の方向性に関する記載内容だが、プロジェクトのポイントのスライドさせただけの記載になっている。分析が不十分。次年度以降どうするか具体的な提案が盛り込まれてもよいと思う。

○ 山岸委員：主な事業の取組状況の「流域下水道の幹線管渠内部の点検延長」や「県営上水道の管路の漏水点検延長」について、点検延長において、何キロのうちの何キロ延長したかなど具体的な指標がないと評価しづらい。上下水道の更新については、今後の課題でも言及されているので、どの程度できたかを示す上でも、そういった説明もしていただきたい。

○ 原嶋委員：K P Iの設定の仕方については、非常に難しいという印象がある。長期的に、改善あるいは考えていく必要がある問題だと思う。都市基盤の整備には、官民それぞれある。今後は、KPIの達成状況に加えて、都市計画や補助金などの行政的な手法が都市基盤の整備にどのようにアプローチしているのか、具体的な記載が必要ではないか。

定性的であっても、行政的なアプローチによってどう都市基盤の整備を誘導しているのかについても示していただくことが必要である。

また、脱炭素や最近都市部では空き家の問題などがあり、街づくりに非常に密接な関係があ

るので、そういった点も含めて具体的な取組の推進について、さらに深めていただきたいというのは課題として指摘させていただきたい。

- 小野島座長：まずは、目標に対して「概ね順調に進んでいます」という一次評価になっているが異議はないか。ただし、0%をどう評価するか、我々委員でもなかなか評価しづらいところがあるが、それによってKPIの達成状況の数字が下がっているということは間違いないと思うので、次年度以降の評価に対して引き継いでいきたい。

また、母数の問題について、計画通りに行ったとして、その計画自体が適切なのかということについて、母数がないと我々は評価できないので、母数といったものは必ず入れたほうがいいという指摘も、次年度に引き継ぎたい。

さらに、今後の方向性の記載について、自然や歴史文化景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われているということに対して、県の取組があまり記載されていないので、具体的な県の取組を記載するよう指摘させていただく。

#### 【まとめ】

- 総合計画審議会の二次評価は、県の一次評価同様、「概ね順調に進んでいます」とする。